

2020(令和2)年度第1回伊賀市地域公共交通活性化再生協議会
上野地域部会 議事概要

■開催日時 2020(令和2)年10月16日(金)

午後7時～午後8時30分

■開催場所 市庁舎本庁舎4階 第401会議室

■出席者 (敬称略)

【委員】

中森 伸正(小田町住民自治協議会 会長)、谷口 和人(新居地区住民自治協議会 会長)、山岡 輝清(猪田地区住民自治協議会 会長)、西居 義清(神戸地区住民自治協議会 会長)、森川 明矩(伊賀市上野老人クラブ連合会 事務局長)、福永 悦子(社会福祉法人伊賀市社会福祉協議会 地域福祉部長)、伊藤 功(伊賀市民生委員児童委員連合会 副会長)、三山 悦史(上野商工会議所 常議員)、池澤 基善(一般社団法人伊賀上野観光協会 副会長)

【事務局】

交通政策課 課長 吉岡 徹也、
主幹 坂森 莊平、主査 吉福 将徳

■傍聴者 0人

■会議概要

1. 開会

吉岡交通政策課長 挨拶

2. 副部会長の互選について

(互選結果・敬称略)

副部会長 池澤 基善(一般社団法人伊賀上野観光協会 副会長)

3. 協議事項

- ・(仮称)伊賀市地域公共交通計画の策定について
事務局から計画本編案に基づき説明

【質疑応答】

部委員	8ページの「想造」は、あえてこの言葉を使っているのか。
事務局	現行計画でこの言葉を使っています。
部委員	26ページで「前向きな協力意向」とあるが、このような結果が何かで出ているのか。

事務局	市民アンケートや利用者アンケートで結果が出ています。
部委員	限られた予算で便利にするのは非常に大変ではないのか。
事務局	将来に向けた計画ですので、改善を目指したものとしています。
部委員	市は伊賀鉄道に対して、支援を続けることはできるのか。
事務局	第3章でクロスセクター効果についてお示ししています。こうした試算等も根拠にしながら、予算をしっかりと確保していきたいと考えています。
部委員	コミュニティバスに窓が無いようだが換気は大丈夫か。また4千万円ほど経費をかけてデザインしたと聞いたが如何なものか。
事務局	ラッピングが窓にかかっているため、窓が無いように見えるだけです。換気もしっかりと行っています。また、デザインについては公募しており、謝金5万円だけの支出です。ラッピングの実施には200万円程かかっていますが、費用の一部をガバメントクラウドファンディングでまかなっています。
部委員	市は何でも地域へお願いするスタンスで、住民自治協議会で全部せよと言ってくる。鳥羽市がイオンに委託して移動販売車を運転しているという新聞記事を持参した。参考にされたい。
部委員	事業21や22は大事だと思う。特に初めて電車やバスになじむ学生時代はそうだと思う。 参考にしたいので、四十九駅の利用率や市のノーマイカー施策を教えてほしい。
事務局	四十九駅の目標は1日400人としていましたが、実状は半分くらいのご利用です。今後も利用促進をしてみたいです。 また、公共交通利用促進ですが、毎年7～9月を利用促進期間としています。同時期に企業をまわって利用促進の働きかけも行っていきます。この期間には、市職員にも利用を働きかけています。
部委員	バス停の移設をしてくれて、ミルボンの方が喜んでいたことをお伝えしておく。

【承認】

4. その他

- ・バス路線別令和元年度実績およびコロナ禍での安全な公共交通利用について、事務局から資料に基づき説明。

【質疑応答】

部委員	自社のバスでもアルコール消毒等行っており、お客様の苦情はない状況だ。参考までに。
-----	--

(終 了)